

研究主題：9年間の子どもの育ちを支える教育課程の編成と学習指導の展開

◆研究主題設定の背景

- ・児童生徒の発達段階を踏まえ、小・中学校で系統的・継続的な指導を工夫・改善していくことは基礎学力の定着と学力向上に不可欠。
→新学習指導要領で重視されている「カリキュラム・マネジメント」により授業改善・組織運営の改善を行う。
- ・平成26年度より豊後大野市教育委員会の「連携型小・中一貫教育校」の指定を受け、一定の成果を挙げている。
→児童生徒の9年間の連続した「学び」をさらに確立するためには、これまでの取組を見直すとともに、教育課程の再編成と「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業力の向上が必要。

研究内容及び具体的な取組

◆小中一貫教育カリキュラムの編成

4-3-2の各段階における育成を目指す姿を学校の教育目標に照らして明らかにするとともに、小中一貫教育カリキュラムの考え方を整理し、学習内容の配列の組み替えや単元構成の工夫を行い、9年間の教育課程を作成する。

○「生活科・総合的な学習の時間」を核とし、国語科の学習内容の配列を組み替えた単元構成を工夫した小中一貫教育カリキュラムの作成(カリキュラム・マネジメント)



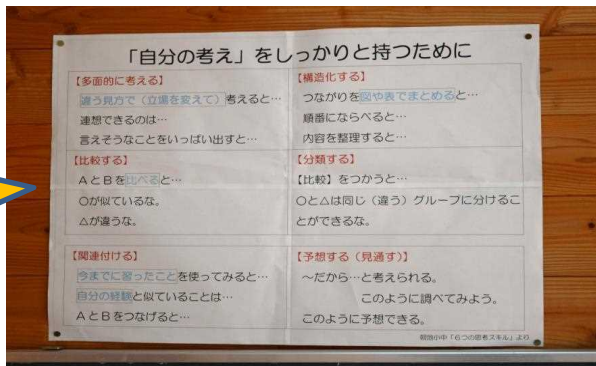
発達段階を踏まえ、
小中同じ視点で
取り組む

Ⅱ期を中心に
乗り入れ授業
も実施

◆言語活動の充実

「伝え合う力」を核とした学習指導の工夫を学習指導の工夫。思考ツールやICT等の活用、学習形態の工夫を行うことによって、主体的・対話的で深い学びへと繋げる。

○「伝え合う場」のある単元構成や授業形態の工夫による「あさじ6つの思考スキル」の定着
○期ごとに目指す「伝え合う姿」を4つの観点に基づいて整理



◆家庭との連携協働

保護者と連携し「学びに向かう力の育成」や「家庭学習の充実」を図る。

- 家庭学習の手引きの見直しと配布
- 課題計画表を作成し、計画的な家庭学習を支援



家庭学習のすすめ

豊後大野市立朝地小学校・朝地中学校

- 1. 家庭学習の大切さ**
子どもが将来、自らの力で自分の道を切り拓き、自分の可能性を広げていけるようになるために、家庭学習はとても重要な役割を担っています。
- 2. 家庭学習の習慣化**
継続は力です。日々の積み重ねによって、大切な子どもの力を伸ばしていきましょう。
- 3. 家庭学習の環境づくり**
○毎日一定時間決まった場所で取り組む「テレビや音楽などは消して真集中に取り組む」「ながら勉強はしない」などがあげられます。
○保護者が子どもの家庭学習の様子を把握するとともに、子どものがんばっている部分を認め、肯定的なほたけかけで子どもを伸ばしてあげることが理想です。
- 4. 学習時間と読書時間のめやす**

○小学1年生 20分と15分	○小学2年生 30分と15分	○小学3年生 40分と20分
○小学4年生 50分と20分	○小学5年生 60分と30分	○小学6年生 70分と30分
○中学1年生 120分と30分	○中学2年生 180分と30分	○中学3年生 240分と30分

PTA「学年委員長部」が中心となり、
学級懇談会で各課程の様子も交流